

奈良県ボランティアだより



笑顔になれるボランティア 第59号

奈良県ボランティア連絡協議会機関紙

令和6年3月発行

会長挨拶

奈良県ボランティア連絡協議会会員の皆様、日ごろより熱いご支援ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。4年という長いコロナ禍を過ごし、5類に引き下げられましたが、まだまだ以前のように十分に活動ができない状況にあるのではないのでしょうか?そのような中でも仲間がつながり、助け合い、地域生活を支え合う人材として日ごろ活動して下さる皆様方に感謝申し上げます。



多様な活動の場で、福祉力アップし頑張っている皆さんが、孤立化・孤独化を無くして、より多様なつながり合い支え合いの活動を広げてくださることを嬉しく思います。

今年度の研究集会では4年ぶりに150人余りの参加を得て、3人の講師を招いてのご講演があり、2つの分科会ではタイムリーな意見交換で大いに盛り上がりました。

明日への活動の一步の大きな力となったのではないのでしょうか!!そしてこれからもますます活気ある楽しいボランティア連絡協議会が永く存続するように皆さん力を合わせましょう!!

奈良県ボランティア連絡協議会 会長 北村 嘉津代

●「令和5年度総会」開催報告(R5.6.10)

本年度はようやく従来通りの開催となり、113名が奈良県社会福祉総合センター5階研修室B・Cに集まりました。総会の議事はスムーズに進行し、全て承認されました。記念講演には、『楽しくなくっちゃ 講演会じゃない!』をメインテーマに活躍されているmottoひょうご事務局長の栗木剛氏をお迎えしました。「コロナがあけてからの自分たちの活動(～若い活動家とのつながり方～)」と題し、明るく親しみやすい語り口で、今できることを今頑張ることが自分の健康維持になり、地域の支えになると説かれました。楽しく生き生きと活動している姿を見せてやろうというのが一番のボランティア活動だとおっしゃいました。また、若い人たちに自分たちの弱点をさらけ出し、スマホの色々な機能を教えてもらったり、ボランティアのコマーシャル作りを依頼したりすることで、若い人たちも私たちの活動に参加するきっかけになるのではと教えていただきました。講演後にふと頭に浮かんだのは、『楽しくなくっちゃ、ボランティアじゃない!』でした。(報告/上牧町・中村)



<新役員紹介>

監査 助川 寿子 (平群町)



令和5年度ならボランティア研究集会開催(R6.2.17)

基調講演 開催テーマ「ボランティアのこれからを考えよう」

“おてらおやつクラブ”とは、厳しい環境にあるひとり親の子どもたちを対象に食の支援等に取り組んでおられる認定NPO法人です。クラブの母体は奈良県田原本町のお寺(安養寺)で、研究集会では事務局の上村氏に支援のきっかけや困難を乗り越えてきた経緯等をお話頂きました。2013年に大阪で発生した母子餓死事件をみられ住職がお寺にあるお供え物を支援団体を通じて“おすそわけ”する形でスタートされました。しかし子どもの貧困は相談できない傾向があり見えにくく数も多い為に支援が足りず、ひとつのお寺の力では対応しきれないことが課題でありました。団体だけでなく家庭からも「たすけて」という声が直接届くようになったことから、全国のお寺にも協力を要請し、個人への支援の輪を広げられました。現在では、約2000のお寺と連携し、全国のひとり親世帯に定期的に提供されています。またコロナ禍による貧困の増大に伴い全国への発送というコスト増が問題となりました。提携する寺院から近隣の対象世帯への発送の仕組みを整備し解決への道筋を作られました。こうした困難に立ち向かう工夫が「たよってうれしい、たよられてうれしい」という理念に基づく活動を継続されています。今では支援を受けた人が「今度はたすけたい」と行動するケースも増えていきます。更なる工夫を重ね、より多くの子どもたちに支援ができるよう取組みたいとの話で締めくくられました。みんなを「次につなげよう」と前向きにさせる講演でした。(報告/大和郡山市・小堀)



おてらおやつクラブ(安養寺)の活動取材しました!



11月9日、ボランティア研究集会の基調講演をしていただくおてらおやつクラブさんの活動を実際に本堂で箱詰め作業を手伝わせていただきました。

その数、その種類にびっくり。

全国のお寺さんに声をかけ、今では約2000件のお寺が毎月、約2700人の子供さんにおやつが届くよう手配されています。送り先はダブらないようにホームページ上にて把握されているそうです。

ひとり親家庭や子供支援団体に月400件~700件に発送しているが、送料は自費のお寺もあり、安養寺さんは事務局をされていて、月に100万円程かかることもあるとか。

お菓子、食料品、日用品、お手紙、手作り品、それらをバランスよく詰めていけるボランティアの方々の気遣いにも心温まる思いがしました。(報告/下市町・馬場)



ご協力
ありがとう
ございました。



語らいの広場1

◇「地域の居場所からつなげよう」

NPO法人 Genki Future Dreams47理事長 齊藤樹氏は7人に1人が貧困の子ども達であることを知りました。お菓子も買えない。塾にも行けない。昔みたいにおせっかいなおばちゃんも居ない。そんな子ども達の為に月1回、こども食堂ではなくお店としてやっていけないだろうか?と考えたのがきっかけに「げんきみらい食堂」を立ち上げられました。中学3年生までの子どもは1食100円。

みらいチケット*を使えばどなたでも無料。平日のお昼を食べに来てくれるお客さんがみらいチケットを買ってくれます。

また、グループワークでは運営を支援するボランティアを集めるのは大変だが、地域の中で高校生、大学生の時にボランティアを経験して頂くことが大事。社協や各学校などにボランティア活動を提案していくともっとボランティアへの参加がふえるのでは。方法としてはSNSなどで呼びかけをしたり、空き家対策として週1回の寺子屋活動をするなど色々出来る事があることを話し合いました。

*みらいチケットとは…明るい「未来につなげるチケット」として、1枚200円で購入していただき、お腹をすかせた人がこれを使えば無料で食事ができます。（報告/葛城市・高井）



語らいの広場2

◇「防災にも生きる、ボランティアとのつながり」

親子支援・災害看護支援*てとめつとの代表、山中弓子氏（看護師・防災士）による主な活動や私たちボランティアとして何が出来るかお聞かせいただきました。阪神淡路大震災から始まり数多く発生している災害支援、そして今年の1月1日の能登半島地震にも関わり、特に地震災害の場合は予告もなく発生することで、常日頃から心がけたいことの中に、3・3・3の法則を教えてくださいました。

3分…自分の命を守り、揺れが収まったら避難開始（近所の助け合いスタート。一時集合場所を近隣で徹底。迅速な救出活動が可能になる）

30分…自力脱出可能者の確認（一時集合場所を活用し、優先順位を確認して救出活動開始。被害の大きな要救護者から救出）

3時間…最も危険な状況の方々の救出を完了（優先順位の低い人の救助と要介護者の安否確認、1人も見逃さず安否確認を行うように）

3日目…安否確認の完了

災害直後の助け合いは時間との闘い。時間の目安としてわすれないように。

そしてグループワークでは、災害の発災時・急性期・亜急性期・中長期・平穏期について私たちが出来ることについて話し合いました。地域住民の力、顔見知りの間柄、声の掛け合いが大事であることなど、色々な意見交換が出来ました。参加者は予定者数を上回り会場一杯で、大変勉強になり今後の活動に活かしていきたいと思いました。後になりましたが1月1日の能登半島地震で犠牲になりました皆様に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。（報告/大和高田市・早瀬）



地域のボランティア活動取材しました! (R5.12.2)

大和郡山市ボランティアフェスタ

大和郡山市ボランティア連絡協議会主催による第18回ボランティアフェスタがやまと郡山城ホールにて開催されました。いたるところにバルーンアートが飾られた華やかな雰囲気の一階で受け付けを済まし、「クイズラリー景品あるよ!!」のパンフレットを頂きました。手話で大和郡山市を表す生き物は(金魚)、点字で使用する点の数は(6個)、日本で1年間に出る食品ロスの量は(523万トン)など12個の問題を解きながら各コーナーを回り景品が頂けます。1階ではフードドライブ郡山のコーナーやボランティア団体の紹介が大きなパネルで展示されていました。また防災グッズコーナーでは非常食や簡易トイレ、テントファミリールームも紹介されていました。地下に降りると舞台では明るい法被を着たなないろ風船の皆さんによるバルーンパフォーマンスの実演が楽しく開かれていました。実演コーナーで私は点訳サークルの体験をしましたが、ひらがな1字に6個の穴を使い分けます。狭い所に一つひとつ確認しながら穴を打つ(凹凸の凹)のには神経と目を使い、本当に根気の要る作業でした。このボランティアフェスタの開催には大和郡山ロータリークラブなど12団体が協賛されており、市ボ連が地域の各団体との交流を大事にされていることが伺われます。



なお1階の片隅に県ボ連のコーナーも設置していただきました。これは「各地域ボ連での催しを県ボ連でも応援します」という思いを込めています。開催者にご迷惑が掛からない範囲での展示をお願いしています。
(報告/上牧町・渡邊)



令和5年度県ボ連交流研修会 (R6.2.3)

こどもや若者と取り組む災害にも強い福祉のまちづくり

地域こども支援ネットワーク事業・「広がれボランティアの輪」連絡会議共催シンポジウムが大阪中央公会堂において、「こどもや若者と取り組む災害にも強い福祉のまちづくり」と題して一般社団法人コミュニティ4チルドレン代表の栗原 英文氏が基調講演をされました。栗原さんは阪神淡路大震災や東日本大震災など現地に行きボランティア活動に取り組みられた皆さんの経験をもとに、子供が育つ環境作り、知る、担う、生み出す、深める「日頃から自らの命と暮らしを大切に作る人づくり」を目指してはじめられたそうです。



生きた防災学習として児童の手書きの絵や中学生のまごころ届け隊活動など人と人との心をつなぐ大切な活動にも取り組まれていることなど、様々な場所でいろいろな体験をしてこられました。

そして、「防災を」いつかくるかもしれない災害時に備える特別な活動から、安心して暮らせる社会を目指す取り組みにしていきたいと思います」と話されました。

二部は、パネルディスカッションで3名のパネリストがそれぞれの立場で「こども×防災×ボランティア」活動を発表されましたが、パネリストの発表を聞いて自分のまわりで出来る事を見つけ実践出来るよう取り組んでいかなければと考えさせられました。(報告/奈良市・田中)



ボランティア学習会

第1回 新聞紙エコバッグ&スリッパ (R5.10.23)



新聞紙エコバッグ



幹事9名で新聞紙を使ったエコバッグとスリッパの制作方法を学びました。

エコバッグ作りは下市町の馬場幹事を始め、「あきつボランティアグループ」の山本さん、西浦さんにご指導頂きました。まず見本として大リーグ大谷選手の写真紙面で作った素敵なバッグが皆に配られました。次に新聞紙を折りたたみ、切り込みを入れ、糊付けする作り方を教えて

スリッパ作成の様子



て頂きました。それぞれ持参した写真紙面で作りましたが、糊付けする際にはちょっとしたコツが必要でした。馬場さんは空箱に新聞紙を貼る方法から改良を重ねてこの方法にたどり着いたとのことでした。プレゼントをこのバッグに入れるとお洒落だと思いました。

スリッパは大淀町ボ連の仲西幹事のご指導で作りました。

その場で新聞紙を自分の足に合わせて折り曲げガムテープを底に貼り完成です。靴のようにかかとの立ち上がりもありオーダーメイドなのでサイズもピッタリ、新聞紙の枚数を増やすとさらに温かく脱げにくいので被災した場合の避難所などで重宝すると思いました。初めての学習会参加でしたが、先輩達に親切にご指導頂きとても楽しい時間でした。(報告/河合町・松澤)

第2回スマホ講座 (操作編) (R5.12.20)

スマートフォンは機種によって少し使い方も違いますが、一般的な使い方を教えていただきました。

- ・グループの中での個人の名前を出す方法
- ・イニシャルで登録されている人に対して、自分が解る様書き替える方法
- ・グループラインの使い方
- ・QRコードの読み取りについて
- ・zoomの使い方

その他にも色々教わりました。なかなか私たちにはハードルが高いなあと思いましたが、皆様と画面を見ながら楽しく良い体験学習でした。

(報告/大淀町・仲西愛子)



第3回 モルック体験会 (R6.3.27)

モルックは、フィンランド発祥のスポーツで、「モルック」という木の棒を投げて、地面に立てた「スキttl」という複数の木のピンを倒して獲得した点数を競うスポーツです。2チームでの対抗戦となり、50点を目指します。道具と適度なスペースがあれば気軽に始めることができ、性別、年代を問わず誰でも楽しむことができるのが魅力です。



昨年に引き続き、動画展示を行いました。

今年も『ボランティアの楽しさを伝えていたい』との思いから、オンラインで活動展示を行いました。2月5日の公開日には、県ボ連会員、団体による活動紹介動画を配信することができました。今年度は、4月30日まで期間を拡大して動画を公開しています。ぜひご視聴下さい。



★ボランティア研究集会参加者からのメッセージや感想★

食べるという大切さ、食を通しての
人と人の繋がりが深まり多く
を学ぶ事ができました。

自主防災の弱さをなんとか
しないと活動を開始した所
で、大変参考になりました。

すべてが大変勉強になりました。
各地で熱心にボランティア
にかかわっている方がいること
も、うれしく心強く思いました。

子どもの居場所づくり
大切だとおもいます。

自分に出来る事を探せました。

報告

本会会員が、令和5年度の下記表彰を受章
されました。

●緑綬褒章

個人 仲西 愛子さん(大淀町)

●ボランティア功労者に対する 厚生労働大臣表彰

個人 北村 嘉津代さん(桜井市)

受賞おめでとうございます。

編集後記

コロナ禍での制限から解放され従来の生活
が戻り、人々が晴れやかに新年を迎えたのも
束の間でした。元日の夕刻に起きた(能登半
島地震)、多くの人の命が奪われた悲しみの
年明けとなりました。

ご冥福を心よりお祈り申しあげます。

また、原稿を頂きました皆様、協力有難う
ございました。

広報

発行者

奈良県ボランティア連絡協議会
〒634-0061奈良県橿原市大久保町320-11 県社会福祉総合センター内
TEL:0744-29-0155 FAX:0744-26-0234

編集者

会長 北村 嘉津代
奈良県ボランティアだより編集委員会